

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第35週 （8月27日～9月2日）

★お知らせ

○夏型感染症（手足口病・咽頭結膜熱（プール熱）・ヘルパンギーナ）に気を付けて！

夏型感染症の報告が増加していますので注意しましょう。

手足口病

定点医療機関当たりの報告数は、第34週の1.47から第35週には2.20と増加し注意報値を超えています。県全域から報告があり、中央西で急減していますが、高知市、幡多、安芸で急増、須崎、中央東で増加し、特に須崎では警報値を、高知市、幡多では注意報値を超えています。

ヘルパンギーナ

定点医療機関当たりの報告数は第34週の0.83から第35週は1.33と増加しています。幡多、須崎で急増、高知市で増加し、特に中央西では注意報値を超えています。

病原体検出情報では、臨床診断名「手足口病」でCytomegalovirusが1例検出されており、手足口病・ヘルパンギーナの原因ウイルスであるエンテロウイルスの検出はありませんでした。今季、臨床診断名「手足口病」で検出数の多いEnterovirus 71は中枢神経系の合併症の発生率が高いことが知られ、まれに急性髄膜炎や急性脳炎を生ずることがあります。高熱・嘔吐・頭痛が見られる場合は十分に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

咽頭結膜熱（プール熱）

定点医療機関当たりの報告数は、第34週の0.60から第35週は0.57と横ばいです。中央西で急減していますが、須崎で急増、幡多で増加し、特に幡多では注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報ではアデノウイルスによる感染症11例の報告があります。

<予防方法> これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。また、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けるなどして、感染予防に努めてください。

○流行性角結膜炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第34週2.00から第35週には3.67と増加しています。高知市で増加し警報値を超えています。

この病気は、「はやり目」とも言われ、流涙、結膜充血、眼脂が主な症状で、感染力が強く、片眼発症後は2~3日で両眼に発症することもあります。また、耳前リンパ節腫脹と圧痛を伴うこともあります。アデノウイルスによる接触感染のため、患者の眼や顔を触った後は流水と石けんでしっかり手洗いしましょう。

<予防方法> 人が濃密に接触する機会が多い場所は注意して下さい

できるだけ他人との接触は避け、眼を触ったらすぐに石けんと流水で手洗いしましょう。家庭内ではタオル、枕、その他眼や涙で汚れそうな物の共有は避けるようにしましょう。

○伝染性紅斑に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第34週0.10から第35週には0.43と急増しています。須崎、幡多、高知市、中央東で急増し、特に須崎では警報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報では「伝染性紅斑の流行が続く」との報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名「不明発疹症」でhuman parvovirus B19が1例検出されています。

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。7日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発疹が出現する7~10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。

<予防方法> 手洗いと咳エチケットです。

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、うがい、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある

女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第 34 週の 2.33 から第 35 週には 1.87 と横ばいです。中央西で急減、幡多以減少していますが、安芸、須崎で急増しています。

定点医療機関からのホット情報では、ロタウイルス 1 例のほか、カンピロバクター属菌や病原性大腸菌、サルモネラ属菌等、細菌を原因とする胃腸炎 5 例の報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名が「感染性胃腸炎」で Sapovirus genogroup unknown が 3 例検出されています。

＜予防方法＞ 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。また、便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第 34 週 0.83 から第 35 週には 1.70 と急増しています。須崎で減少していますが、幡多、安芸で急増、高知市で増加しています。

この病気は軽い風邪様の症状で発症し、通常 1～2 週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）に RS ウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。

予防接種ワクチンはなく、患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。

○百日咳に気を付けて！

第 35 週に百日咳の発生届けが、高知市保健所から 1 例報告され、2018 年にはいって高知県内の百日咳の届出は合計 154 例となっています。

百日咳は、感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染します。7～10 日程度の潜伏期を経て、普通の咳症状で始まり、咳の回数が増えていきます。次第に短い咳が連続的に起こり、息を吸う時に笛のようなヒューという音が出るようになり、この様な咳嗽発作が繰り返されます。やがて、激しい咳は減衰していき、2～3 ヶ月ほどで回復します。

百日咳は特にワクチン未接種の乳幼児が罹患すると重症化しやすく、罹患しても典型的な発作性の咳嗽を示すことが少ない比較的軽い症状の成人から重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することが考えられることから、成人で咳が長期にわたって持続する場合は注意して下さい。

＜予防方法＞ 4 種混合ワクチンは生後 3 ヶ月から接種出来ます

- ・生まれた直後から百日咳にかかる可能性があります。咳が続いている人は、百日咳の可能性も考えて、赤ちゃんに注意して接しましょう。
- ・外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさけ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- ・定期予防接種があります。ワクチンは生後 3 ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

●国立感染症研究所 百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（届け出基準、届け出様式あり）

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis_guideline_180425.pdf

○風しんの届出数が増加しています

先週に引き続き、関東地方を中心に風しんの届出数が増加しています。今後、全国的に感染が拡大する可能性がありますので注意してください。

＜各医療機関管理者の皆様へ＞

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行うので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

＜県民の皆様へ＞

風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。

風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方）

妊婦を守る観点から妊婦の周りにいる方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

風しんの感染予防の普及・啓発について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekakaku-kansenshou/rubella/vaccination/vaccine.html

☆山や草むらでの野外活動の際にはダニに注意



農作業や草刈りの時には、長袖・長ズボンで肌の露出を出来るだけ少なくしましょう。

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間	使用禁止	
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

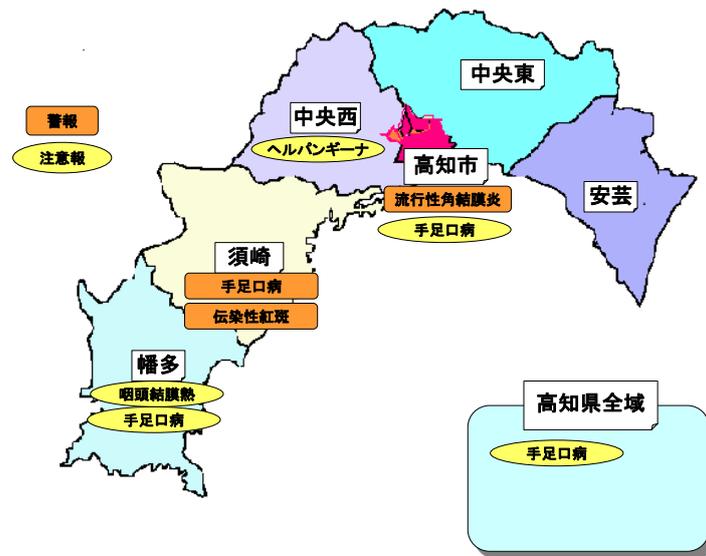
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↓：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病	↗	2. 20	中央西で急減していますが、高知市、幡多、安芸で急増、県全域、須崎、中央東で増加し、須崎で警報値を、県全域、高知市、幡多では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	1. 87	中央西で急減、幡多で減少していますが、安芸、須崎で急増しています。
RS ウイルス感染症	↑	1. 70	須崎で減少していますが、県全域、幡多、安芸で急増、高知市で増加しています。
ヘルパンギーナ	↗	1. 33	幡多、須崎で急増、県全域、高知市で増加し、中央西では注意報値を超えています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	0. 90	幡多、中央西、須崎で急増、県全域で増加しています。

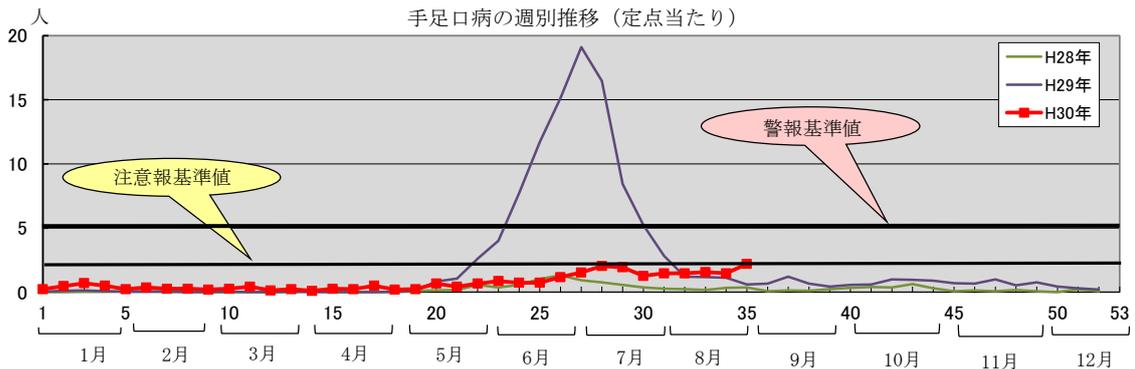
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

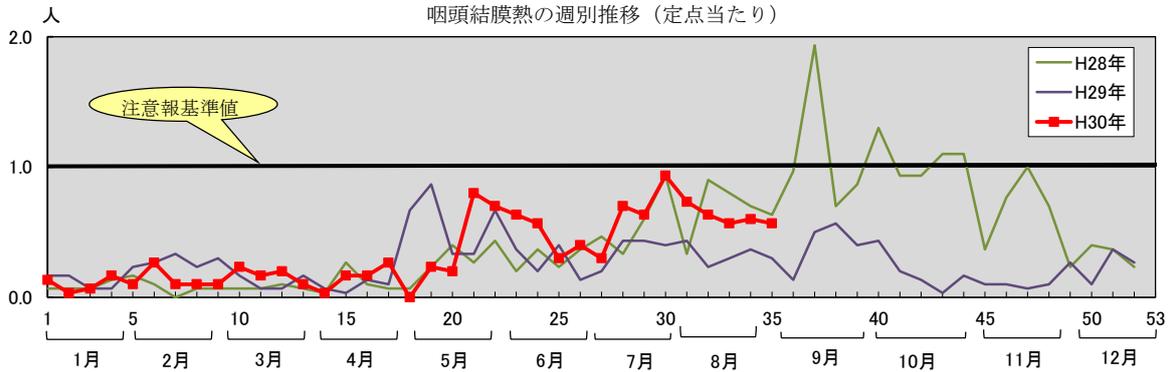
○手足口病 第35週：2.20（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.20（前週：1.47）と増加しています。中央西 0.67（前週：4.33）で急減していますが、高知市 3.18（前週：1.36）幡多 2.40（前週：1.20）安芸 1.50（前週：0.50）で急増、須崎 5.00（前週：3.50）中央東 0.57（前週：0.29）で増加し、須崎では警報値を、高知市、幡多では注意報値を超えています。年齢別に見ると、患者の92%が5歳以下となっています。



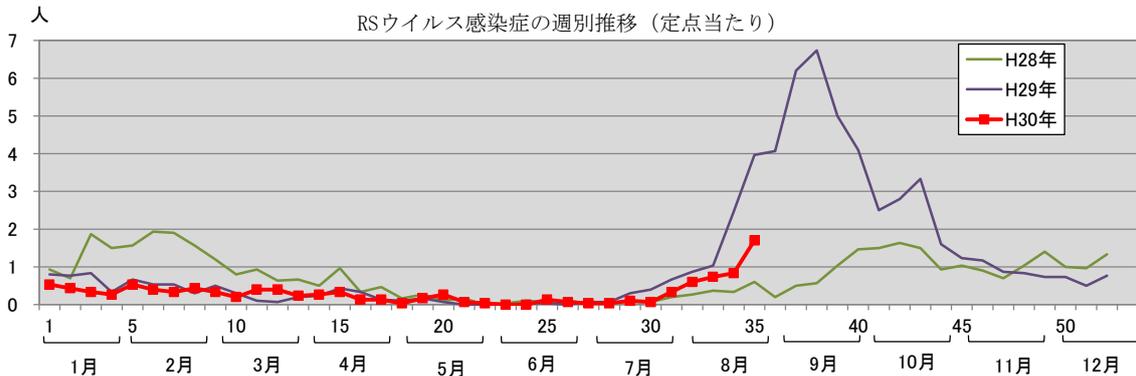
○咽頭結膜熱 第35週：0.57 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.57 (前週：0.60) と横ばいです。中央西 0.00 (前週：1.33) で急減していますが、須崎 0.50 (前週：0.00) で急増、幡多 1.40 (前週：0.80) で増加し、幡多では注意報値を超えています。



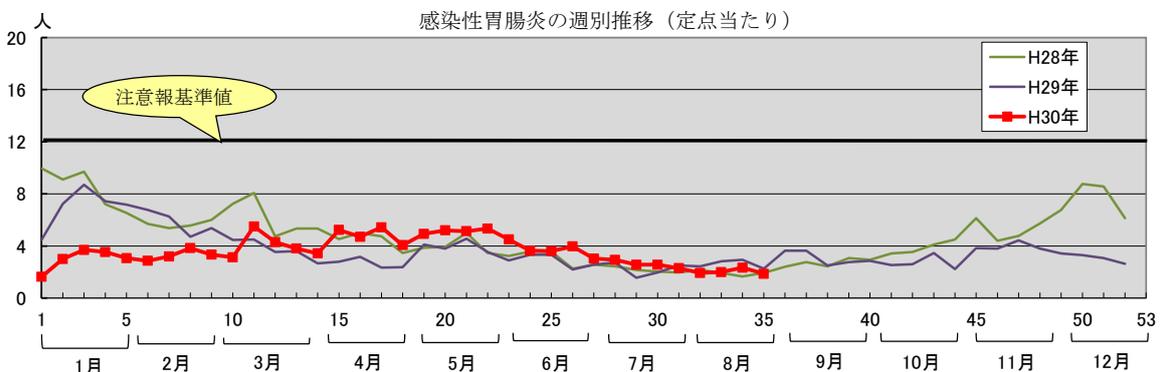
○RSウイルス感染症 第35週：1.70 (注意報値：- 警報値：-)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.70 (前週：0.83) と急増しています。須崎 0.50 (前週：1.00) で急減していますが、幡多 3.40 (前週：1.00) 安芸 1.50 (前週：0.00) で急増、高知市 2.55 (前週：1.45) で増加しています。



○感染性胃腸炎 第35週：1.87 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.87 (前週：2.33) と横ばいです。中央西 0.00 (前週：3.33) で急減、幡多 1.60 (前週：2.20) で減少していますが、安芸 1.50 (前週：0.50) 須崎 0.50 (前週：0.00) で急増しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
35	感染性胃腸炎	38℃,下痢,嘔吐,嘔気,咳嗽,上気道炎,	6ヶ月	女	高知市	Sapovirus genogroup unknown
35	感染性胃腸炎	嘔吐,嘔気,	3	女	須崎	Sapovirus genogroup unknown
35	感染性胃腸炎	41℃,下痢,嘔吐,嘔気,	1	男	幡多	Sapovirus genogroup unknown

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
32	手足口病	38℃,発疹,	1	男	須崎	Cytomegalovirus
34	不明発疹症	38℃,発疹,	6	女	須崎	human parvovirus B19
34	不明発疹症	発疹,	7	男	須崎	Epstein-Barr virus
34	インフルエンザ様疾患	39℃,下気道炎,	6ヶ月	男	幡多	Parainfluenza virus 3

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	69	40歳代 女	中央西
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	3	20歳代 女	中央東
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	14	80歳代 女	高知市
	百日咳	1	154	60歳代 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	おひさまこどもクリニック	サルモネラ腸炎 1例 (11歳女)
	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染症 3例 (1歳男、2歳女、4歳男) サルモネラ感染性胃腸炎 1例 (7歳男)
高知市	高知医療センター小児科	ヒトメタニューモウイルス 3例 (7ヶ月男、11ヶ月男、4歳男) RSウイルス感染所 3例 (2ヶ月女、9ヶ月男、2歳女)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 5例 (1歳2人、3歳、5歳、39歳) カンピロバクター+病原性大腸菌 O-6 腸炎 1例 (6歳) カンピロバクター+病原性大腸菌 O-1 腸炎 1例 (8歳) 病原性大腸菌 O-25 腸炎 1例 (17歳)
	福井小児科・内科・循環器科	RSウイルス感染症 1例 (1歳女) 溶連菌感染症 7例 伝染性紅斑 1例 (7歳男) 手足口病 8例 水痘 1例 (4歳男：ワクチン接種1回) ヘルパンギーナ 1例
	細木病院小児科	ロタ 1例 (2ヶ月女)
中央西	くぼたこどもクリニック	ヘルパンギーナ 1例 (2歳女：須崎市)
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 1例 (2歳男)
須 崎	もりはた小児科	手足口病、伝染性紅斑の流行が続く ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (3歳女) 百日咳 今週無し
幡 多	こいけクリニック	アデノウイルス感染症 1例 (2歳男)
	さたけ小児科	アデノ 1例 (5ヶ月女) 水痘 1例 (2歳女：ワクチン2回接種済)
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 陽性 1例 (6ヶ月女)

★全国情報

第33号 (8月13日～8月19日)

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核312例
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症195例
- 4類感染症：E型肝炎5例、A型肝炎18例、重症熱性血小板減少症候群1例、つつが虫病2例、デング熱5例
日本紅斑熱12例、マラリア2例、レジオネラ症32例
- 5類感染症：アメーバ赤痢13例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症43例、急性脳炎8例
クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症12例、
後天性免疫不全症候群15例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、
侵襲性肺炎球菌感染症23例、水痘 (入院例に限る) 5例、梅毒67例、
播種性クリプトコックス症2例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、
百日咳154例、風しん42例、麻しん1例

削除予定：風しん1例

報告遅れ：E型肝炎3例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症8例、
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症21例、急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎2例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、水痘（入院例に限る）6例、梅毒46例、
播種性クリプトコックス症4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳73例、
風しん5例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

		第35週 平成30年8月27日(月)～平成30年9月2日(日)							高知県衛生研究所				
定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(34週)	高知県(35週末累計) H30/1/1～H30/9/2	全国(34週末累計) H30/1/1～H30/8/26
インフルエンザ	インフルエンザ								()	1 (0.02)	168 (0.03)	20,863 (434.65)	1,760,648 (356.70)
小児科	咽頭結膜熱			1	8		1	7	17 (0.57)	18 (0.60)	1,037 (0.33)	357 (11.90)	49,257 (15.63)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	15	3	1	7	27 (0.90)	19 (0.63)	3,458 (1.11)	1,390 (46.33)	244,310 (77.53)
	感染性胃腸炎		3	15	29		1	8	56 (1.87)	70 (2.33)	10,186 (3.26)	3,768 (125.60)	545,727 (173.19)
	水痘		5	1	4			1	11 (0.37)	16 (0.53)	707 (0.23)	207 (6.90)	33,915 (10.76)
	手足口病		3	4	35	2	10	12	66 (2.20)	44 (1.47)	3,105 (0.99)	781 (26.03)	75,655 (24.01)
	伝染性紅斑			1	2		9	1	13 (0.43)	3 (0.10)	988 (0.32)	98 (3.27)	17,832 (5.66)
	突発性発疹			1	9	1		2	13 (0.43)	10 (0.33)	1,414 (0.45)	382 (12.73)	47,567 (15.10)
	ヘルパンギーナ			7	15	6	3	9	40 (1.33)	25 (0.83)	4,896 (1.57)	150 (5.00)	67,127 (21.30)
	流行性耳下腺炎				2				2 (0.07)	1 (0.03)	442 (0.14)	51 (1.70)	16,914 (5.37)
	RSウイルス感染症		3	2	28		1	17	51 (1.70)	25 (0.83)	4,191 (1.34)	327 (10.90)	56,626 (17.97)
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	8 (0.01)	()	435 (0.63)
	流行性角結膜炎				11				11 (3.67)	6 (2.00)	757 (1.10)	72 (24.00)	19,058 (27.38)
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	7 (0.01)	3 (0.38)	335 (0.70)
	無菌性髄膜炎								()	()	24 (0.05)	1 (0.13)	508 (1.06)
	マイコプラズマ肺炎				2				2 (0.25)	2 (0.25)	99 (0.21)	62 (7.75)	2,832 (5.90)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2 (0.25)	()	3 (0.01)	14 (1.75)	104 (0.22)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)				1				1 (0.13)	1 (0.13)	6 (0.01)	31 (3.88)	3,031 (6.31)
計 (小児科定点当たり人数)		14 (7.00)	33 (4.70)	163 (13.36)	12 (4.00)	26 (13.00)	64 (12.80)	312 (9.87)			31,496	28,557 (685.01)	2,941,881
前週 (小児科定点当たり人数)		2 (1.00)	28 (3.96)	121 (10.16)	39 (12.99)	12 (6.00)	39 (7.80)		241 (7.70)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

		第35週											
定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(34週)	高知県(35週末累計) H30/1/1～H30/9/2	全国(34週末累計) H30/1/1～H30/8/26
インフルエンザ	インフルエンザ									0.02	0.03	434.65	356.70
小児科	咽頭結膜熱			0.14	0.73		0.50	1.40	0.57	0.60	0.33	11.90	15.63
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.14	1.36	1.00	0.50	1.40	0.90	0.63	1.11	46.33	77.53
	感染性胃腸炎		1.50	2.14	2.64		0.50	1.60	1.87	2.33	3.26	125.60	173.19
	水痘		2.50	0.14	0.36			0.20	0.37	0.53	0.23	6.90	10.76
	手足口病		1.50	0.57	3.18	0.67	5.00	2.40	2.20	1.47	0.99	26.03	24.01
	伝染性紅斑			0.14	0.18		4.50	0.20	0.43	0.10	0.32	3.27	5.66
	突発性発疹			0.14	0.82	0.33		0.40	0.43	0.33	0.45	12.73	15.10
	ヘルパンギーナ			1.00	1.36	2.00	1.50	1.80	1.33	0.83	1.57	5.00	21.30
	流行性耳下腺炎				0.18				0.07	0.03	0.14	1.70	5.37
	RSウイルス感染症		1.50	0.29	2.55		0.50	3.40	1.70	0.83	1.34	10.90	17.97
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.63
	流行性角結膜炎				11.00				3.67	2.00	1.10	24.00	27.38
基幹	細菌性髄膜炎										0.01	0.38	0.70
	無菌性髄膜炎										0.05	0.13	1.06
	マイコプラズマ肺炎				0.40				0.25	0.25	0.21	7.75	5.90
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				0.40				0.25		0.01	1.75	0.22
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)				0.20				0.13	0.13	0.01	3.88	6.31
計 (小児科定点当たり人数)		7.00	4.70	13.36	4.00	13.00	12.80	9.87			685.01		
前週 (小児科定点当たり人数)		1.00	3.96	10.16	12.99	6.00	7.80		7.70				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年9月3日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。